

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年3月3日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3770104200
法人名	医療法人社団木村内科呼吸器科医院
事業所名	グループホームエーデルワイス
所在地	香川県高松市高松町明神2160-1 (電話)087-841-2222

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成20年2月1日	評価決定日	平成20年3月3日

## 【情報提供票より】(19年12月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・ <b>平成</b>	平成 18年 3月 15日
ユニット数	2ユニット	利用定員数計 18 人
職員数	16人	常勤 12人, 非常勤 4人, 常勤換算 7.8人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り 2階建ての2階部分
------	-------------------

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	47,500~50,500円	その他の経費(月額)	実費	
敷金	(有) 150,000円		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( )円 <b>無</b>	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	250円	昼食	500円
	夕食	400円	おやつ	100円
	または1日当たり 1,250円			

### (4) 利用者の概要(12月1日現在)

利用者人数	18名	男性	3名	女性	15名
要介護1	3名	要介護2	4名		
要介護3	5名	要介護4	3名		
要介護5	3名	要支援2	0名		
年齢	平均 86.95歳	最低	71歳	最高	97歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	木村内科呼吸器科医院(内科・呼吸器科) 渋谷歯科(歯科)
---------	------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市街地に位置しているが、近くに屋島、八栗をバックに静かな環境に恵まれている。建物は、2ユニットが平面でつながり、広々とした中でゆったりと利用者が生活している様子がうかがえる。「寄り添い、待つ介護」の理念のもと、利用者の力を引き出し、ゆっくり待ちながら見守り、やさしく職員が対応している。近くの医療機関との連携も良く、家族からの信頼も高い。職員間の協力しあう姿勢も見受けられ、地域の中で自分らしく暮らし続けることを支援し続けていく中で、職員も成長していこうとする姿勢が感じられる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価での改善点を事業所職員全体で見やすい一覧表に表し、それぞれ役割分担をして、現在担当者で活動を検討しながら進めている。すでに、緊急時の防災訓練は、マニュアルに沿って実施し、近隣の住民の参加を計画している。入居者一人ひとりの持っている力を「寄り添い、待つ介護」の理念に沿い、職員が対応し、共に成長しようとする姿勢が感じられる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価の意義を職員全員が理解し、自己評価に取り組み、その成果が今回の自己評価に活かされている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2か月に1回、運営推進会議を開催し、報告だけで終わることなく、改善に向けた具体的な意見交換や検討の場となっている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の面会は、比較的頻繁にあり、面会時、必ず職員は家族と話をし、暮らしぶりや健康状況などを丁寧に報告している。家族からの意見や苦情は真摯に受け止め、積極的に解決に取り組み、運営に活かし質の向上に活かしている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>開設して約2年を迎え、利用者が地域の中で自分らしく暮らし続ける支援の実現に、一歩一歩着実に歩んでいる。これまでに地域の青年団のお祭り支援や幼稚園の雛飾りの招待など受け、交流を通して連携を図っている。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を職員全員で確認し、地域生活の継続支援を目指す理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の申し送り時、理念を唱和し、職員各自が理念を掌握し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	グループホーム開設2年目である。第1回目の外部評価の後、地域の幼稚園や青年会、婦人会と交流が広がり始めており、一つひとつの積み重ねの実績を大切にしながら進めたいと、管理者がこのことに関して自己覚知されている。	○	お隣のラーメン店との繋がりははじめ、幼稚園との雛祭の交流と広がり始めている地域との交流が深まり、継続されることを期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価後、全職員で改善に取り組みがなされている。一部これからの取り組みのものもあるが、今回も職員全員で自己評価を行い、外部評価の意義を理解し、利用者への質の向上を図ろうとする姿勢がうかがえる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、家族をはじめ、自治会、市町担当者、地域包括支援センター等が2か月に1回、ホーム内で会議を開催している。メンバーの意見は、改善に向けた具体的なものであり、サービスの向上に繋げる努力をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の機会を活かし、連携に努め、アドバイスを受け、質の向上に取り組んでいる。	○	事業所から積極的に、行き来ができる連携をとることを期待する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回、一筆箋で担当者が利用者の近況報告を行っている。面会時には、必ず家族と話しをし、暮らしぶりや健康などを丁寧に報告している。広報誌は、四半期に一度発行している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設け、家族等の意見や苦情を収集し、積極的に解決に取り組んでいる。また、意見や苦情は経緯を文書化し、誰でも閲覧できるようにしている。	○	家族とのコミュニケーションを大切にしながら、家族の満足度調査を実施し、より家族等の希望に寄り添うことを期待する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職に伴う利用者への影響を、最小限にするように努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内では、経験の多い職員の介護技術を見て学んだり、ビデオで基本的介護技術を確認、また、研修会に参加したり、さまざまな場面で職員育成に力を注いでいる。事業所外研修を受ける機会を順次提供し、職員を育てていきたいとの考えがある。	○	継続した職員研修を実施していくことを期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者間の交流がほとんど実施されていないが、今後はホーム外研修の機会を捉えたり、ネットワークづくりを通して相互訪問活動をして、サービスの向上に繋げる交流を考えている。	○	しっかりしたビジョンを自分たちで持ち、交流を通して質の向上を期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	安心してサービス利用ができるように、事前面接で捕らえた情報は職員に周知している。自宅訪問して生活状況を把握、馴染みの生活用具を持参し、馴染めるためのアプローチを職員は実施している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	理念の「寄り添い、待つ」を実践し、利用者の意思を尊重すると共に、笑顔のある関係を大切にしている様子がうかがえる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	集団生活の中にも、個々の個性やこれまでの生活を独自の様式を使い、意見をつかみ、尊重し、本人の思いを大切にするように努めている。	○	もう一步踏み込んだ把握をすることにより、より本人本位な援助ができることに期待する。
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族を交え、3か月に一度の見直しを行っている。利用者の状況変化が見られたときには、随時変更をしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	担当者会議を開き、3か月ごとに見直しを行っている。実践的な対応ができる介護計画になるように見直しがされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホームの機能の中で、可能な限り対応している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望に沿って受診支援ができ、適切な医療が受けられ、医師との連携も取れている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在までにトラブルはないが、最善のケアサービスできるように心がけている。	○	事業所としての方向を確立し、全員で方針を共有されることが望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライバシーに配慮した言葉かけ、対応ができています。個人情報に関わる文書などは、詰所等、人の目に付かない場所に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	建物の屋上にはテーブルと椅子が配置されており、のんびりとくつろぐことができる。また、野菜や花作りができるため、日々の楽しみに利用できる場所となっている。本人の生活リズムや思いを大切に、日々の暮らしがその人らしくなるよう、心がけて支援に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホーム調理のため食事作りは月1回のみ職員と利用者が共に作っている。	○	食事作りが、利用者の前向きな意思や気持ちが引き出せるような機会になるよう、定期的な実施に期待する。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望により夜間に入浴対応したり、原則週2回以外にも入浴できるように実施し、おっくうがったり、拒んだりする利用者にも楽しめるように支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	希望者全員にはなっていないが、配膳や米とぎ、テーブル拭き、後片付け等を楽しみながら、役割としてできるように支援している。	○	介護計画に職員の声を反映することにより、自分達の取り組むものが見えてくると思われる。利用者が伸びる支援に期待する。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者全員ではないが、墓参り等、希望時に対応ができています。	○	目的等を明確にし、一人ひとりが楽しみになる機会を増やしていくことに期待する。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員が利用者の出入りが掴める位置を心がけ、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災に関しては年間2回、防火訓練を実施し、マニュアル整備を行っている。	○	地震、水害等の災害に対しても対策を講じること、夜間の現場職員が安心して夜勤ができる対策に期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士により栄養バランスが確保され、水分不足が起らないように意識をもって関わっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間はガラス張りで日差しが十分にあり、室内は明るく、落ち着いた雰囲気である。また、ソファ等が適切に配置されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら、本人が居心地のよい居室作りに心がけている。		